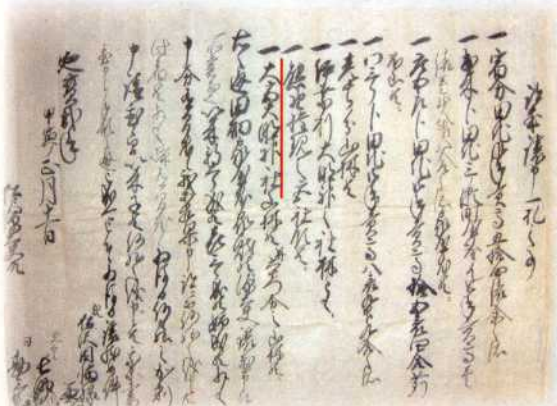




# 大宮諏訪神社の歴史

今回はお練り祭りにちなんで、現在調査中の文書などから大宮諏訪神社に関する歴史についてご紹介します。

大宮諏訪神社の創建は、はっきりした事は分かりません。1228（安貞2）年の諏訪上社の神長官を務める守矢氏あての寄進状から、中世初めから飯田郷が諏訪社領であったとみられ、その関係で大宮諏訪社が作られたのではないかと言われます。以後、坂西氏など飯田郷を治める領主は、諏訪上社で7年に1度行われる御射山神事などの神事に奉仕するようになりました。かつて神社の神主であった松澤家に伝来する古文書によると、松澤氏の先祖が1502（文亀2）年に諏訪上社の大祝の命により飯田へ派遣され、神職になったという伝承があります。そして諏訪上社から御射山神事に奉仕するよう命じる「御符」が飯田郷に届くと、それをしめ縄を張った場所に置き、祭祀を行ったそうです。

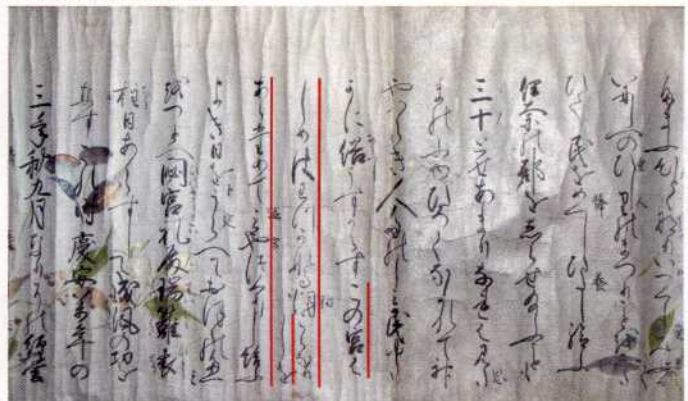


1674（延宝2）年神主松澤因幡の譲り状。息子源太夫へ相続するリストの最後に「大宮大明神社」が見られる。

1652（承応元）年3月に作られた大宮諏訪社の縁起。



縁起の末尾部分。和田宗允が撰文、脇坂一族が紙や装丁の費用を出資した事を記しています。



和田宗允の、神道に関する学識をうかがえる貴重な史料です。1650（慶安3）年の社殿造営について、「…この宮、はじめはわづかなるほら（祠）なりしを、あらためてみやつくりし給ふ」と記録されています。

その後1650（慶安3）年に脇坂安元の手によって社殿が整備されると、2年後には初めて祭礼が行われました。現在に続くお練り祭りの始まりです。この事は1648～51（慶安元～4）年の桜町設置や、承応年間（1652～55）の千村代官所中荒町移転のような、城下町整備に関連しているとみられます。このほか、脇坂安元・安政の治世には愛宕社や郊戸八幡社、島田村八幡宮（鳩ヶ嶺八幡宮）など、ほかの領内神社の社殿再興や修繕も行っています。こうした神社保護の動きは幕府の儒臣林羅山の学問を受けた藩主脇坂安元と、安元が抱えた儒者の和田久右衛門（宗允）の影響でしょう。1652（承応元）年に脇坂氏一族と和田久右衛門によって作られた大宮諏訪神社の縁起から、その学識を知ることができます。また、この時期は幕府のほか、水戸藩や会津藩、岡山藩を始めとして、学術に造詣の深い藩主の主導で、寺社帳作成と寺社の整理といった宗教政策が各地で行われていました。

しかし、1670（寛文10）年頃から、長久寺との間で神社の管轄を巡る争いが起こります。この争論は1674（延宝2）年に幕府の裁許が下り、大宮諏訪社の管轄が長久寺に帰属すると、松澤源太夫は神主職を辞め、上飯田村の百姓となりました。その約70年後、1740（元文5）年、この屋敷地などの境界を巡って長久寺と争論になりました。このとき幕府から出された裁判の一連史料および判決文と絵図が、松澤家に残されています。

歴史研究所は3月にこれらの史料を展示する予定です。詳細は後日、「広報いいだ」とホームページに掲載します。

中学生や高校生の教科書に『史料で読む 飯田・下伊那の歴史1  
松尾大森本の家と周辺の社会』を読んで

森本 信正（森本家文書提供者）

飯田市歴史研究所で、平成21年3月に「史料で読む飯田・下伊那の歴史」その1が発行されました。これは歴史研究所へ提供した資料の部数が個人では多かったので“その1”になったようです。

内容を見ると13のパートに分かれていてそれぞれの分野の専門の大学の先生方や研究員の皆さんが十分に吟味し、精読し、地域の歴史の学習の教科書になるように、釈文と読み下しと現代語訳とがあり、これなら中学生や高校生でも地域史の学習の教科書になるでしょう。ここまで工夫して担当された執筆者の先生方に敬意を表します。

私は以前から、古文書が専門家の手によって現代文に翻刻される機関が出来るといいのにと空想をしていた時もありましたが、飯田市の大英断で、飯田市歴史研究所が発足して早や6年が経過しました。研究所の活動が飯田市や下伊那にとって情報の発信源となり、今後、この地域の歴史や地域史の学習が活発になり、教養の高い民主的な文化の香り高い地域になり、暮らし易い平和な桃源郷になることを切望しています。



飯田アカデミア2010 夏までの講座

第56講座

6月5日(土) - 6日(日)

森下 徹さん

山口大学教育学部教授

テーマ「城下町萩の社会構造」

第57講座

6月19日(土) - 20日(日)

高澤 紀恵さん

国際基督教大学社会科学科教授

テーマ「近世パリに生きる」

第58講座

7月3日(土) - 4日(日)

鈴木 淳さん

東京大学大学院准教授

テーマ「関東大震災」

りんご庁舎3階会議室（飯田市本町1丁目15番地 飯田市地域交流センター）  
土曜 2コマ 午後1:30~5:00 日曜 2コマ 午前10:00~午後2:30

受講料 1講座 500円（資料代）

申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。

電子申込み ながの電子申請サービス (<http://shinsei-e-nagano.lg.jp>) でもお申込みできます。

市民の声

平岡ダムとの出会い

原 英章（市民研究員）

長野県の最南端、天龍村に造られた平岡ダムは、今日も静かな山峡に豊かに水をたたえています。この平岡ダムの歴史に興味を持ったのは、もう20年以上前のことです。ある時天龍村のT先生が平岡ダムについて「おれの親父は当時のこといろいろ知っておるで、話を聞きにおいなんよ」と誘ってくれました。そこで、私はごく軽い気持ちで、華人隊長をされていたという先生のお父さんを訪ねました。ところがお話を聞いてみると、予想以上に大変衝撃的な内容でした。「こんな身近なところにも戦争の悲惨な歴史があったんだ、こどもたちの学習の教材になるかもしれない」と思わずメモを取りはじめたのでした。これが私の平岡ダムとの出会いでした。

平岡ダムは、1940（昭和15）年着工、戦争中の重要な電力エネルギー供給源として国策のもとで完成を急ぎました。そのために、日本人だけでは労働力が足りず、朝鮮半島から戦時労働動員された朝鮮人（当時朝鮮半島は日本の植民地だった）、米英を中心とする連合軍捕虜、最後には強制連行されてきた中国人をも使って完成を急いだのです。その結果、苛酷な労働と栄養失調、時には暴力的な制裁により、多くの犠牲者が出ました。このことが終戦後に「捕虜虐待罪」として裁かれたのです（連合軍捕虜についてのみ）。

今、平岡ダム・発電所の近辺には、関係されたみなさんの尽力によって、中国人犠牲者の慰霊碑や、連合軍捕虜犠牲者の慰霊碑等が建立されています。『天龍村史』にも「平岡ダム建設史」という一章があり、詳しく説明されています。

私は市民研究員にさせていただいたこの機会に、長年関心は持ってきたものの身を入れて調査することのできなかった平岡ダムの歴史について、まだよく解明されていないと思われる朝鮮人労働者のことを中心に調査を進め、過去の教訓を未来に生かすようにしたいと思っています。



## 歴史研究助成報告会を開催します

歴史研究所では、個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行っています。

今年度この助成を申請した皆さんが研究報告を行います。

◆日時：3月12日(金) 午後5時30分～  
3月13日(土) 午前9時30分～

◆場所：飯田市上郷公民館103号会議室

### ◆報告される研究課題

3月12日

- ・「飯田市裏界線における路地空間の実態調査と  
住民意識に関する研究」
- ・「近世後期の東本願寺学僧・深励による教化とその受容」
- ・「日記記述から史実の検証を、どのようにしたらよいか」

3月13日

- ・「座光寺地区史学調査のビジュアル保存」
- ・「飯田市長野原地区の歴史の研究・小字から見た歴史  
『大井川、道路、屋号、古墳、神社、等の歴史調査研究』」
- ・「地域に伝承する歴史的事項の研究・啓発」
- ・「伊賀良の地名・小字調査」
- ・「近世天竜川の川支配と幕府代官間連携」

※事前の申込みは必要ありません。お気軽にご参加ください。

※当日発表を行わない研究もあります。詳細はお問い合わせください。

問い合わせ 飯田市歴史研究所 ☎0265-53-4670 FAX0265-21-1173

## 出前講座

### 一町家建築を学ぶ一

金澤雄記

長姫高校建築学科の課題研究「町家建築の調査・研究」の出前講座を行いました。身近な古建築に触れ、現状や長短所を理解し、今後の利活用を考えることを目標に、今年度は町家建築をテーマとして取り上げました。向井先生率いる6名の学生とともに、現地実習として松尾八幡に残存する犬塚家住宅の実測調査を行い、1/30の構造模型を製作し、空家利用の1案を考えました。下記日程で行われる長姫高校課題研究発表会にて研究成果の発表を行います。

◎日時 2月5日(金)  
13:30～15:45

◎場所 鼎文化センター



## 歴研賞講評(著書部門)特別賞 田中雅孝『両大戦間期の組合製糸』

上山和雄(顧問研究員)

蚕糸業が最盛期を極めた第一次世界大戦期から、衰退に至る1930年代の時期まで、養蚕農民を組合員とする組合製糸は全国的に発展し、その中でも下伊那郡は顕著な発展を示しました。本書は、下伊那郡の組合製糸とそれを支えた養蚕業、農村の包括的な分析を試みています。

本書の特色は以下の三点に整理されると思われます。

特色の第一は、養蚕・製糸に関して、1920年代から30年代にかけて全国・県の多くの調査・統計類が作成・刊行された統計や調査を駆使して、全国的な地域類型、県下各郡の地域類型を設定し、長野県・下伊那郡の位置付けを行っているところです。その中でも知られてはいたが、あまり使われてこなかった養蚕業の統計類の分析が注目されます。

第二に、蚕糸業が衰退過程に入る1930年代の、各製糸類型・個別製糸の生糸輸出価格を基準にしながら、全国・県内の製糸業の特質を指摘し、その中に下伊那郡の組合製糸を位置付けている点です。多くの組合製糸の「事業報告書」を収集し、それを基に長い期間にわたり、多面的に組合製糸の動向を分析しています。

さらに第三として、下伊那の組合製糸中最も早く多条繰糸機を導入し、優良組合として知られた山吹村大正館の経営分析と、それを支えていた同村の農村構造を緻密に明らかにした第6章の分析が本書の白眉として注目されます。特に1930年代、農林省の「全国養蚕経営調査」の対象地として選ばれた同村北駒場地区の、全国調査と地区に伝存されている養蚕組合史料を合わせた分析は、1920年代から30年代の農村と農家の経営動向の在り方を具体的に示しています。

その他にも郡下組合製糸の女工や養蚕労働、製糸資金など、1920年代から30年代にかけての分野の分析を含む、組合製糸の包括的な研究となっています。

## 飯田アカデミア

第55講座 たなか まさたか  
講師 田中 雅孝さん  
(松川高校教諭・歴史研究所調査研究員)

場所 りんご庁舎3階会議室  
(飯田市本町1-15 飯田市地域交流センター)

テーマ1 3月13日(土)  
13:30～17:00

「日本産業革命と下伊那の蚕糸業」

テーマ2 3月14日(日)  
10:00～14:30

「世界大恐慌と下伊那の組合製糸」



2009年度「飯田歴研賞」  
特別賞受賞作品  
『両大戦間期の組合製糸』  
著者 田中雅孝  
御茶の水書房 定価7350円

# 歴研ゼミ

2月・3月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分  
(各ゼミ共通)

## 近世史ゼミ

■開催日  
2月2日・16日  
／3月2日・16日  
(第1・第3火曜日)  
■担当 竹ノ内雅人  
(研究員)

## 建築史ゼミ

■開催日  
2月9日／3月9日  
(第2火曜日)  
■担当 金澤雄記  
(研究員)

## 近現代史ゼミ

■開催日  
2月25日  
／3月11日・25日  
(第2・第4木曜日)  
■担当 田中雅孝  
(調査研究員)

## 定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

2月27日(土) 「役用記録から見る 近世後期の飯田町」  
講師：竹ノ内雅人 (研究員)  
3月25日(木) 「大平史 市瀬街道争論文書を読む」  
講師：清水迪夫 (調査研究補助員)

場所：歴史研究所 2階研修室 時間：午後2時～4時

## シリーズ 地域史講座 松尾大森本の家と周辺の社会

昨年3月発行の「史料で読む 飯田・下伊那の歴史1 松尾大森本の家と周辺の社会」を素材に、松尾地区やその周辺の社会を考えるシリーズの第3回目です。

● 3月6日(土) 午後2時～4時  
「公事から見る島田村とその周辺」  
・講師 竹ノ内雅人 (研究員)  
・場所 松尾公民館 2階講座室

## 歴研日誌

- 1日 地域史講座(建築史)  
—金澤雄記研究員(松川高校)
- 1日 近世史ゼミ「大宮諏訪神社神主の譲り証文」
- 8日 建築史ゼミ「裏界線2」
- 8日・9日 北沢家文書及び旧県庁文書史料調査  
—竹ノ内雅人研究員、本島和人調査研究員(長野県立歴史館)
- 9日 地球温暖化対策課行政非現用文書移管
- 9日 長野原歴史研究会月例会—金澤雄記研究員
- 10日 近現代史ゼミ「胡桃澤日記刊行企画」
- 12日 地域史講座  
「松尾大森本の家と周辺社会シリーズ2」  
「教化運動と経済緊縮問題」  
齊藤俊江調査研究補助員  
「飯田の防空体制」清水迪夫調査研究補助員  
(りんご庁舎3階会議室)
- 15日 近世史ゼミ「天龍川通船二付口演」
- 16日 中津川中山道歴史資料調査  
—池田勇太研究員、竹ノ内雅人研究員(中山道歴史資料館)
- 17日 久保田良一氏保存書簡調査  
—池田勇太研究員(長野市)
- 19日 松島年一氏・嘉子氏聞き取り(龍江)
- 20日 横井三郎氏聞き取り(研修室)
- 23日 「丘の上」研究会
- 24日 非現用文書愛宕蔵整理

- 5日～29日 職業訓練実習  
—飯田ゆめみらいICTカレッジ実習生2名
- 12日 建築史ゼミ「丘の上の寺院」
- 14日 近現代史ゼミ「『飯田町の暮らし4』の編集会議」
- 14日・15日 飯田大火・在留外国人史料調査  
—本島和人調査研究員(長野県立歴史館)
- 16日 アカデミア第54講座  
「アジア・太平洋戦争の戦場と兵士」  
—吉田裕さん(上郷考古博物館1階会議室)
- 19日 近世史ゼミ「長久寺と松澤氏の争論1」
- 28日 近現代史ゼミ「『飯田町の暮らし4』の編集会議」
- 30日 定例研究会「維新时期における飯田藩の藩政改革」  
—池田勇太研究員

■継続調査 部奈一朗氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、上松家所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、小林八十吉氏文書、今村八束氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵文書、田中伍市氏関係史料、中原謹司氏史料、嶋岡和治氏所蔵文書、篠田貞三氏所蔵文書、鎮西徹氏所蔵文書、南信濃自治振興センター所蔵文書、飯田市公民館非現用文書

## 2月・3月の催事スケジュール

2月		3月	
月	1	月	1
火	近世史ゼミ・NL44発行	火	近世史ゼミ
水		水	
木		木	(財)福武学術文化振興財団 研究助成贈呈式
金		金	
土		土	地域史講座
日		日	
月		月	
火	建築史ゼミ	火	建築史ゼミ
水		水	
木		木	近現代史ゼミ
金		金	歴史研究助成報告会
土		土	アカデミア第55講座
日		日	東大調査
月		月	
火	近世史ゼミ	火	近世史ゼミ
水		水	
木		木	定例研究会・近現代史ゼミ
金		金	
土	定例研究会	土	
日		日	
		月	
		火	
		水	
		木	
		金	
		土	
		日	
		月	
		火	
		水	
		木	
		金	
		土	
		日	
		月	
		火	
		水	
		木	
		金	
		土	
		日	

開所日 午前9時～午後5時  
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日